

愛鳥は、ほめて伸ばす



特集3
PART1

ポジティブ・レインフォースメントによる トレーニングの勧め

text ● バーバラ・ハイデンライク

アニマル・トレーナー

翻訳 ● 奥村 仁美

トレーニングは コニコニケーションのひとつ

コノコワインコが自転車に乗り、カカトウーが旗を揚げ、コニコアが観客からお金を奪う——。オウムと「トレーニング」という言葉を聞くと、これらのイメージが多くの方の頭に浮かぶでしょう。

私たちを喜ばせてくれるものの多くは、トレーニングのおかげで身につくものであることは違いありませんが、私たちの飼育下にいる鳥は、繰り返されるポジティブ・レインフォースメントのトレーニングを通して彼らの芸を習得していくとしても過言ではありません。

トレーニングとは教えることです。私たちが、ポジティブ・レインフォースメントを用いて動物を訓練するとき、動物たちに「欲しいものを手に入れるためにはどうやってしたら良いか」という情報を与えます。私たちが動物に教える行動は無限にあります。私たちを楽しませるために鳥に芸を教える以外に、問題行動解決のため、ショーに出演する鳥の管理のため、診療中の鳥が協力的になるように教えるため、繁殖を容易にするためなど、鳥との「コニコニケーション」の手段の一つとして使うことができます。

科学に基づいたトレーニング

愛鳥家にとって、鳥をトレーニングするところとは新しい考え方ではありませんが、トレーニングの背後にある科学を理解するという考え方は最近徐々に人気を得ています。

トレーニングの背後にある科学は「応用挙動(行動)解析」(Applied Behavior Analysis)と呼ばれます。応用挙動解



最近のトーリンス・マコーリーへの懐恩として、動物に私たちが望む行動を獲得させ、望まない行動を減少させるために、優しく穏やかな方法に焦点を当てている応用行動解析の要素が取り入れられています。

それは、動物が嫌がる処罰やネガティブ・レインforcementを避けることだ

りすぎたり、行動を理解するためにその行動を擬人化するという陥りやすい過ちを避けることができる 것입니다。

応用挙動（行動）解析は確立している科学ですから、誰でもこの科学に関する情報を入手することができます。この解析方法

この科学は、先天的な行動でさえ修正できるとも言っています。最も重要なことが、私たちは優しく穏やかな方法を用いて行動を更正する必要があるということです。これによりストレスの軽減、飼い主と飼い鳥との信頼の構築、身についてしまつ

るのです。

トレーニングは楽しみながら、少しづつ

デジティブ・レインフォースメント （正の強化）

●ポジティブ・レインフォースメントは別名、リワード・トレーニング(ご褒美トレーニング)とも言われます。特定の行動(望ましい行動)を数を維持したり、増やしたりするために、その行動の直後に刺激(物)を与えることで、その行動とご褒美のつながりを理解させ、こちらが望む行動を学習させるトレーニングです。

●この刺激(物)は、相手が尊び、喜ぶ「ご褒美」です。たとえば、おやつやほめ言葉、愛撫などそうです。このご褒美を得るために、対象者は夢中になって最低の努力を惜します学ぼうとします。お勧めです！

上手くゆかないとき、罰として「ご褒美はナシ」は有効？

- そもそも、動物に「罰」という観念はありません。ポジティブ・レインフォースメントは、良い行動をご褒美を結びつけさせ、「どうすればご褒美を得られるか」を学習させるトレーニングです。うまくゆかないときはトレーニングをやめてください。

両極端なトレーニング方法は、
ネガティブ・レインforcement
(負の強化)

- ネガティブ・レインフォースメントは、特定の行動の回数を維持したり、頻度を上げるためにその行動の直後に「不快な刺激(物)」を与えること。別名、「エスケープ/回避トレーニング」とも言われます。この刺激(物)は、たとえば猛獣を従わせるために使う「ムチ」のように、対象者が恐怖や嫌悪を感じる物です。対象者は、この刺激(物)を回避するためだけに努力します。お勤めできません!

- トレーニングがうまくゆかないときに、この不快な刺激を「罰」として使うと、反撃や逃避行動を招いたり、無関心や恐怖心などの弊害が現れる傾向があります。

ボジティブ・レインフォースメント・トレーニングの可能性

管理を向上させないといけないなど、まだこの業界はあらゆる面で初期段階にあると言える感じ。





ポジティブレインフォースメントによるトレーニングは、新しい主との信頼関係を築き、ストレスを軽減し、攻撃的行動の発生を回避します。

新刊情報
「愛鳥家必見! 愛鳥家のための最新情報」
新刊情報
「愛鳥のための最新情報」
新刊情報
「愛鳥のための最新情報」

- 飼い主の手にストップ・アップ
- ほかの人の手にストップ・アップ
- 移動用キャリアーに入る
- タオルで遊ぶ
- 体重計に乗る
- ケージに戻る
- ブレースタンドやケージで待つ
- 攻撃的にならずほかの鳥と遊ぶ

ポジティブ・レインフォースメントトレーナーは、エンターテイメントを念頭においてトレーニングすることがよくあります。しかしそれは同時に、信頼を築き、鳥の生活の質を向上させる作用もあります。次のようなトレーニングが該当します。

- ターゲット(目標物)にタッチする
- 足でバイバイする
- 羽でバイバイする
- 羽を広げる
- 「はい」とつなぐ
- 「いいえ」と頭を振る
- 振り向く
- 物を取ってくる
- 口笛でおしゃべりする

これらの行動は、一見非実用的に思えますが、保定することなく爪切りや羽切りをさせてくれる行動を導いたり、触診、総排泄腔や後鼻孔のサンプル採取、超音波やレントゲンなどの検査、体温測定、ネフライザー、麻酔、採血などの医療行為を容易に

行えるようになります。この訓練方法は、すでに動物園での治療現場に生かされています。(著者の Parrot Behavior and Training Workshops のCD-ROM版を観ることができます)

トレーニングは、問題行動への糸口



ターゲットトレーニング(目標物を使ったトレーニング)は、教えるのに有益な方法です。

応用行動解析の理解は、愛鳥家が問題行動に対処するための基礎を与えてくれます。咬む、叫ぶ、特定の人しか懷かない、怖くてケージから出られない、羽をかじったり抜いたりするなどの行動は、多くの場合鳥が環境に慣れるために身についた問題行動なのです。そして残念なことに、鳥のその問題行動を気づかないうちに人間が「強化」してしまうのです。

行動の作用を理解し、その行動に先立つ出来事とその行動の直後の結果を特定することにより、飼い主は、問題行動に対応すべく応用行動解析に基づいた良策を見つけることができるのです。

トレーニング入門

スタートのキュー →ブリッジ →できたらご褒美



正しい行動を取ったときにブリッジとして、クリッカーや、笛、レーザーポインターなど等を使うことができます



ポジティブ・レインフォースメントは、状況に刺激物を追加することで行動頻度を上げます。オウムにとって、簡単で効果的な刺激物はおやつです

多くの方が驚かれるのですが、ポジティブ・レインフォースメントのトレーニング方法は比較的簡単です。何度も練習することで、上手に活用することができるようになります。

【ポイント】トレーニングを始める前に知っておくと便利な用語は「キュー」と「ブリッジ」のふたつです。

●キュー（合図）

動物に何をするか指示する合図。多くのトレーナーが言葉や手で合図をします。

●ブリッジ（つなぎの刺激物）

動物が正しい行動をとったときにそれを知らせるための合図や印。動物が正しい行動を取つてから、ポジティブ・レインフォースメント（ご褒美）を与えられるまでの間をつなぐ物。**【ブリッジの例】**クリッカー、口笛「よしー」となどの言葉、タッチなどがあげられます。

いくつかの段階を踏んでひとつつの行動を徐々に教える

「してほしい行動」のトレーニングは、10~20分間のセッションを繰り返すことで行います。

【ポイント】その行動を鳥が理解やすいいくつかのステップに分け、最初のステップを学んでから次のステップに進むようにします。最終的に、これらの複数のステップが一緒になることで望ましい行動につながります。

このように徐々に行動を形成させ

る方法は「アプロキシメーション」と言つて、行動のトレーニングにたびたび使われます。段階を踏んで徐々に教えることは、トレーナーと鳥のダンスに似ています。鳥はいくつかのステップを続けて習得することもあれば、次の段階に進むのを躊躇することもあります。この場合、トレーナーは鳥がすでに習得している前段階に戻ります。難しいステップに挑戦する前に、習得済みのステップを繰り返すトレーニングをすることで鳥に自信がつくのです。鳥を手にステップ・アップさせたり、体重計に乗せたり、キャリアーに入れるなど多くのトレーニングにこの方法を利用することができます。

少しずつ根気よく、楽しんで繰り返す

鳥の才能に見合った行動を見出すまで何度も調整が必要ですが、最終的にはトレーナーが教えようとしないことを獲得するのです。トレーニングは複雑なダンスに似ており、トレーニングがより楽しくなる要素もあるのです。トレーニングはトレーナーにやりがいを与えてくれるでしょう。トレーニングが退屈になることは滅多にありません。鳥の種類、個体差、各種行動がまったく異なる新たな挑戦を提示してくれるからです。

トレーニングはそれほど難しくありません。いくつかの単純な概念を理解することで新しい発見の道が開かれます。ポジティブ・レインフォースメント・トレーニングは楽しい気晴らしとなるだけでなく、飼い鳥を行儀が良く、ストレスが少なく、穏やかで、頑張りやで何事にも夢中になるコバンバニオンパートにしてくれます。そして何より、鳥と人間の絆を深めてくれるのです。



ブリッジ
ご褒美へのつなぎ
クリッカー、口笛、「よし」などの言葉

ステップ2

ブリッジ

ご褒美へのつなぎ
クリッカー、口笛、「よし」などの言葉

ステップ1

ギュー

行動を起こす
音声
言葉や手の動き

できなければ前に戻って
自信をつけさせる

ステップ3

ブリッジ

ご褒美へのつなぎ
クリッカー、口笛、「よし」などの言葉

できた！

ご褒美

してほしい行動
たことを同時に
おやつなど

トレーニングをイメージすることができる。さらに、行動に合ったギューの特定、飼い鳥が喜ぶご褒美やブリッジを特定することも大切です。

トレーニング開始！

新しい行動の訓練の順序は次の通りです。



「ギュー」を覚えさせること

最初、鳥はギューを理解しないでしょう。ですから最初のステップは、トレーナーが望む行動の一部を鳥が行つような状況を作り出すことになります。例えば、ご褒美をもらいのために手にステップ・アップすることを教えるとしたら、鳥を手に導くためにヒマワリの種を使うとよいでしょう。もし鳥が手に向かって動いたら、ブリッジを出して、ヒマワリの種を与えます。鳥が手に向かって動きはじめたら、「ステップ・アップ」などの言葉でギューを出すものいいでしょ。

【ポイント】ブリッジは最終的に止めてもかまいませんが、ポジティブ・レインフォースメント（=ご褒美）は、止めないでください。ご褒美がないと、時間が経つにつれて、トレーナーが望む行動をしようとすると「鳥のやる気」が低下するからです。

- 1 トレーナーがギューを出す
- 2 鳥が望む行動を取る、または望む行動の近似行動を取る
- 3 正しい行動（または近似行動）に対してトレーナーがブリッジを出す
- 4 トレーナーが鳥にボジティブ・レイノフォースメント（=ご褒美）を与える
- 5 望む行動が取れるようになるまで、1～4を繰り返す

近似行動が積み重なり、鳥が特定の行動をする際のギューを理解したことが明らかになつたら、その行動に対するブリッジを次第に止めることができます。ブリッジはトレーナーが何を望んでいるのかを明確に伝えるための手段なので、行動を習得した必要ありません。もしトレーニングがなかなか進まなかつたり、鳥が新しい行動を習得するのに苦労していたら、再度ブリッジを利用するともできます。

「トレーナーは、行動を起こす音声や手の動きによる行動の近似行動のことを指すのです。最終目標達成にあたるまでの間です。最終目標は、行動をうながすヒマワリの種がなくては、ギューが出されたらステップ・アップのやうになつてじるのか書き出してみる良いでしょう。そうすることにより、トレーナーが訓練課程をイメージすることができます。さらに、行動に合ったギューの特定、飼い鳥が喜ぶご褒美やブリッジを特定することも大切です。

トレーニングの実践 「モノを取ってくる」



トレーニングはオウムにモノを教えるためだけでなく、問題行動への対処方法や診療中の鳥が協力的になるために覚えることができます

おもちゃをくわえる→ブリッジ→おもちゃが容器に落ちる→ブリッジ

1. 鳥を短い止まり木に乗せる

30cmほどの短い止まり木を用意することで、鳥が自由に動ける範囲を制限します。

1~3を繰り返します

3. 鳥のクチバシの下で、小さい容器を構える

そのうち鳥はビーズを持っていることに疲れてビーズを落とします。それを容器で受け止めてください。

ビーズが容器に入ったとき、ブリッジを与えてください。

2. プラスチック製のビーズのような小さいおもちゃ、または重さのある小さいおもちゃを手から扇にあげる

普通、鳥は好奇心からそれをクチバシで取ろうとします。もし鳥が取ろうとしなければ、ビーズの裏に食べ物を隠してみてください。クチバシで探ろうとします。鳥がクチバシでビーズに触れたらブリッジをしてご褒美を与えます。

鳥がクチバシでビーズを取り上げるまで、ビーズに触れるという近似行動から徐々に教えてください。

*このトレーニングでは、ビーズを見せることが視覚的なキーとなっていますが、「取って!」といった言葉のキーを使っても良いでしょう。ほかの物を取ってきてもらいたい場合などのトレーニングでも、この言葉のキーが活用できるでしょう。

新しい行動を習得することは、コンパニオンバードにとって精神的にも肉体的にも非常に刺激的なことです。オウムが地球上の動物の中でも非常に高い知能を持つ動物であることはよく知られています。その高い脳力を使う機会があるということは、生活の質が向上することもあるのです。次にあげる例は、「モノを取ってくる」という簡単な行動をトレーニングする方法です。この方法は、初心者のトレーナーが、ポジティブ・レインforcementのトレーニング方法を練習するためにも活用できます。

【ポイント】ブリッジとご褒美を決めておくトレーニングを始める前に何をブリッジとして使うか決めておいてください。クリッカーを1回鳴らす、「よし!」という言葉などでかいめません。
ブリッジの後に、ポジティブ・レインforcement(ご褒美)を与えてください。ご褒美は、ヒマワリの種でも鳥の好きなおやつでも良いでしょう。頭を搔いてあけたり、注目してあげることもポジティブ・レインforcementです。「鳥が喜ぶこと」であるのが重要です。





移動した容器に落ちる→プリッジ&ご褒美

4.

容器の位置を少し横に動かす
すると鳥は容器にビーズを落とす
ります。もし容器にビーズを落とさ
ったらプリッジもご褒美も与え
をもう一度差し出します。鳥に複数
スをさせることで、「容器の中に落
ばご褒美がもらえる」を理解

5.

容器でビーズを受け止められるよう
に容器を元の位置に戻す
うまく受け止められたら、プリッジとご褒
美を与えます。

6.

再度、容器の位置を変える
鳥が容器の中にうまくビーズを落とす
ら、たくさんのご褒美を与えます。
入れられなかったら、ステップ3から
ステップ5までを繰り返しトレーニング
ください。
ポジティブ・レインフォースメントを得るためには「ビーズを容器の中
に落とさなければならない」と鳥が理解
するまで、繰り返します。

7.

さらに遠くに容器を置く
「ビーズを容器の中に落とす」という概念
を理解したら、容器をさらに遠くに置い
てください。容器の位置を変えるたびに
ステップ3~5を繰り返さなければならな
い場合もあります。
最終的には止まり木の片側に容器を置
くと、鳥が反対側でビーズを受け取った
後、容器まで持ってくるようになります。

容器まで持ってくる→トレーニング終了



ポジティブ・レインフォー
スメント・トレーニングに
より人間と動物の絆を強化
することができます

最終的に鳥はこれらのトレーニングを法
則化することを学び、ほかの場所やほかの
物でもこの行動を行うようになります。
鳥と容器を止まり木ではなくテープ
の上に置いて挑戦してください。ステッ
プ3~7を繰り返しながら徐々に進め
よう。

トレーニングのコツ

ステップ・アップの 何が問題?



強要が「噛む・手をこわがる行動」を招く

飼い鳥を協力的にさせようと無理強いしてしまうと、なかなか消えない不快感から深刻な反動が起こります。一番頻繁に見られる反動の一つが、手を見ると噛むという行動を覚えてしまうことです。

ここで重要なのが「覚えてしまつ」という言葉です。鳥は、先天的に手に対して攻撃的なわけではありません。「この行動は、手を伴う不快な経験に繰り返しされただけで覚えてしまつたのです。たぶんこの



「飼い鳥はステップ・アップの命令に従わないといけない!」——これは鳥専門雑誌で、何年にもわたり、繰り返し言われていることです。

「従う」と「命令」。私はこれらの言葉を聞くと嫌な気持ちになります。手にステップ・アップしたくない鳥に、強制的にそうさせているところを想像してしまうからです。通常ステップ・アップには、手を鳥の胸部に押しつける、鳥を素早く手でぐい上げる、足を止まり木から剥ぎ取るなど の操作が必要です。私のようなポジティブ・レインフォースメント・トレーナーにしてみると、「これらの操作を考えただけで不快になります。

「何で?」と疑問に感じる人もいるかもしません。もちろんステップ・アップの命令により、「鳥を手に乗せる」という命令が望む行動をさせることができます。しかし、強要を用いたトレーニングは、鳥にとってみれば嫌悪を抱く経験なのです。鳥の胸部に手を押しつける、すくい上げる、足を剥き取るなどは、それが本当に最低限であっても鳥にどうぞとも不快な体験なのです。

かどきにば、一回噛んだだけで噛むの」とか

「畜産をうながす

有效であることを覚えるのです。よつて、次に手が鳥のスペースを侵すようなことがあれば、おそらく噛むでしょ。

攻撃的な行動を止めさせるために鳥の噛む行動を無視しなさいといっているのではありません。鳥が噛もうと考える前のボディ・ランゲージに注意を向けることが信頼関係を築く近道なのです。概して鳥は、不快な気持ちを示すボディ・ランゲージを噛むずっと前に発しています。ボディ

ー・ランゲージを注意深く観察して鳥が心地よく感じていると思われるよう調節してあげることで、攻撃的な行動をせず協力的になってくれることでしょう。

恐怖反応でも同じことが言えます。腕や肩には乗るもの、何があっても手には乗らないというオウムを知っている人も多いでしょう。先程も言いましたが、生まれながら手を怖がるオウムはないのです。よつて手に対する経験が鳥に恐怖反応を示すようにさせた、という解説がより現実的なのです。

ステップ・アップを強要されたために、噛んだり恐怖反応を示すようになった鳥はたくさんいます。

その結果、噛む行動が原因で手放された鳥、手を怖がってケージに引きこもりになってしまった鳥、遊んでやらえずケージに放置されている鳥……こうした思いもよらない苦痛を強いられた鳥は数えきれないほどいるのです。

彼らの責任ではないのに、噛む、面白くないというレッテルを貼られて見放された鳥が数多くいる現状を多くの人に知つてもうつじとは特に大切だと思います。



ポジティブ・レインフォースメント・トレーナーは、鳥に、合図によってキャリアーに入るなど実用的で有益な行動を教えます

攻撃的な行動を習得してしまった鳥は出会う度に私は悲しい思いをします。鳥と関わる人間がポジティブ・レインフォースメント・トレーニングについて学ぶ機会があつたならこのような状況にならなかつたにと思うのです。残念なことですが、一度

攻撃的な行動（または恐怖反応）を覚えてしまって、ポジティブ・レインフォースメントのトレーニングを通して手にステップ・アップをさせることは難しくなってきます。しかしきできないわけではありません。

自由に飛べる鳥を使った教育的なパード・ショーに年十年も携わっていた自分に

とつて、何千羽というコンパニオン・パロットが手に対して恐怖反応を示したり攻撃的な行動を取ることを知ったときは、本当にショックでした。そして、情報こそが違いをもたらしてくれるという結論に達しました。

自由に飛べる鳥を使ったショーのトレーニングには、ポジティブ・レインフォースメントの方法が使われます。トレーナーが手にステップ・アップを強要するようなネガティブ・レインフォースメントを行えば、自由に飛べるオウムは簡単にその場から去ることができます。そのため、ネガティブ・レインフォースメントやそれにによる障害などは起こりえないのです。

その対方に、昔からコンパニオン・パロット業界ではネガティブ・レインフォースメントを奨励するアドバイスが多くされていました。これにより問題を抱えた鳥を作り出してしまったのです。しかし言い換えると、コンパニオン・パロットの飼い主にとってまさに今、重要な時期が訪れて

いることを意味しています。ポジティブ・レインフォースメント・トレーニングが多くの飼い主に知られることで希望を持つことができます。

オウムは命令に従う必要がなく、代わりに自由に遊びながらステップ・アップすることを喜ぶのです。ステップ・アップするのを喜ぶようになるのです。

ネガティブ・レインフォースメントが育てるのは、無気力な服従心

変わることは時として難しくもあります。ネガティブ・レインフォースメントでも行動に変化をもたらすことができるため、この方法に慣れている人は他の方法を考慮する必要性を感じないのでしょう。ネガティブ・レインフォースメントでも結果は出ます。しかし、誠実な飼い主として実効性があるかないかだけを考慮しても意味がありません。その理由は、ネガティブ・レインフォースメントを通しての行動の習得は楽しくないからです。

ネガティブ・レインフォースメントは、エスケープまたはハラスマント・トレーニングとも言われています。動物は嫌な思いをしたくないために命令に従うのです。これは信頼関係を築くプロセスとは言えません。さらに、ネガティブ・レインフォースメント・トレーニングの方法では、最低限必要とされる反応しか導けません。動物は嫌な経験を避けるためだけに必要最低限のことだけするのです。

また、ネガティブ・レインフォースメン

ト・トレーニングの方が短時間で確かな結果が得られると誤解されているのです。

「命令」から「お願ひ」へ

確かに結果はすぐにできます。しかし、ポジティブ・レインフォースメント・トレーニングでも、短時間で、効果的で、確かな結果を得ることができます。

中には、緊急時に鳥は素早くステップ・アップする必要があると巣を鳴える人もいるでしょう。家が火事など本当の緊急時には、飼い鳥の安全を確保するためにできるだけ何をやしないなければならないというのを理解できます。しかし、この緊急時の線引きが時に曖昧になっています。

たとえば、仕事に遅刻しそうなときは、ポジティブ・レインフォースメント・トレーニング方法を放棄するほどの緊急時ではないと思います。ちょっと不都合なことがあったとしても、ポジティブ・レインフォースメント方法に時間をかけたほうが、長期的にみてもより確かな行動の成果を得ることができます。

私の経験から、ほとんどの場合、ステップ・アップという行動の習得にネガティブ・レインフォースメント・トレーニングを用いる正当な理由はないと思っています。

活を共有する鳥びのひとつは、コンバーチン・パロットと飼い主が構築できる特別な関係でしょう。ポジティブ・レインフォースメント・トレーニングにより信頼が深まり、信じられないほど報われる関係が築けます。

鳥との接し方の中でひとつだけ変えることができるならば、ステップ・アップは「命令」ではなく、「お願ひ」にしてみてください。



トレーニングに自発的に加わってもらうコツ

●強要するのではなく、鳥に選択肢を与える

このトレーニングにおいて重要な鍵となるのは「鳥に選択肢を与える」ということです。強要するのではなく、鳥が自ら選択して「トレーナーのところへ来ればご褒美がもらえる」と教えることを目標としています。ご褒美とは、おやつ、頭を搔く、おもちゃ、注意を払うなどです。

鳥が何を好きか特定し、手にステップ・アップするという最終目標行動を習得するまで、その好物を利用して少しづつ近似行動を最終行動に近づけていくください。

もしも、攻撃的な行動を見せたら？

手とご褒美をゆっくり動かして数秒間隠してください。これには次の2つの意味があります。

- ・鳥に対してボディー・ランゲージを理解したことを伝える
- ・ご褒美を得る機会を失ったことを鳥に示す

この方法により、鳥は落ち着いて行動することが増え、攻撃的な行動が減少していきます。

最終的には、ご褒美を得るために自発的に手にステップ・アップする行動を習得します。習得の過程における「目標物へ向かわせるトレーニング」というのを上手に利用することで、日常のお世話時に飼い主が望む場所へ飼い鳥に行ってもらうこともできるようになります。

●クチバシを目標物に向けさせ、目標物を手に近づけていく

まず、鳥のクチバシを特定の目標物（鳥の注意を引けるもの）へ向けるようにトレーニングします。目標物は好きなおもちゃ、おやつなど、何でも構いません。ステップ・アップの行動を教える場合は、その目標物を、乗ってもらいたい手に徐々に近づけていくのがコツです。

ステップ・アップさせたい手は固定し、簡単に手に乗れるように手助けしてください。決して鳥に向かって手を動かしたりせず、鳥が目標物を追いかながら自発的に手に向かってくるようにうながしてください。



もしも、手に対して良い経験がなかったら？

手に近づくにつれて不安な表情を見せたり、攻撃的な行動を取るかもしれません。怖がっていてもあえて一生懸命に近づいてこようとしている鳥には、寛大にトレーニングを進めてください。



乗ってもらいたい方の手を固定する



おやつを持った手を、乗せたい手に近づける



おやつを追いかながら手に乗るように動かす



手に乗る

プロフィール●バーバラ・ハイデンライク

カリフォルニア大学デーヴィス校より動物学で理学士号を取得後、1990年より、動物トレーナーとしてのキャリアをスタートさせる。動物園にて鳥が自然の行動を見せるようトレーニングを行う。シカゴ近郊のブルックフィールド動物園にて、鳥をメインとした教育プログラムを開発、その後ディズニー社のディスカバリー・アイランドのバード・ショーなどの教育プログラムも手がける。アニマル・トレーナーとして世界的に知られているスティーブ・マーティン氏率いるナチュラル・エンカウンターズ社にて、運営本部長として15件ものバード・ショーのプログラムを考案(ディズニーのアニマル・キングダムで行われているフライツ・オブ・ワンドーショーや、ステイト・フェア・オブ・テキサスで行われているバーズ・オブ・ザ・ワールド・ショーなどを含む)。現在、世界中で動物園、コンベンション・パロック団体などに対する動物の行動や動物のトレーニングに関するコンサルテーションを行っており、バード・トレーニング・ワークショップや講演も多数行っている。動物の行動分野の専門家としての活動は13年以上となる。